

豊庄だより



第 756号 2023 年 5 月 8 日

福岡市早良区南庄 2-26-13
社会福祉法人林生会豊庄保育園
園長 西尾 達

間に土曜日と平日が入り、保育園は完全な連続休みにはなりませんでしたが、4月29日から始まったゴールデンウィークが終わりました。行楽地に行った人・仕事の人・家で休養の人等、様々な日々を過ごされたことと思います。

5月連休明けの保育園は、子どもたちや保護者にとって2度目の「試練の時」です。1度目は4月1日の入園式。それから約1ヵ月。ようやく保育園という新しい環境に慣れてきたころですが、再び「試練」が訪れます。一緒に乗り越えましょう。心配なこと・困ったことがあったら、担任(私・園長でもOKです)に相談して下さい。

この時期になると、私は3年前のことを思い出します。2020年4月7日の緊急事態宣言から始まった混乱です。4月1日の入園式のあとから自宅で感染予防のため自粛する人が増え、緊急事態宣言後の出席率は50%前後を推移しました。子どもたちが新しい環境になれるためには、保育士との信頼関係の確立と同じクラスの友達とのつながりが育っていく必要があります。コロナ禍はその後、今日まで3年以上にわたり、集団が育っていく取り組みを奪いました。コロナの罹患者は減少してきたとはいえ、今後も油断はできません。コロナ禍により、人と人との関係を作り上げるのが困難なことを経験した私たちだからこそ、今後どのような取り組みをしていくべきかを探っていかなければと思っています。

コロナ禍の話題はこれくらいにして、「ゴールデンウィーク」について書きます。「ゴールデンウィーク」、訳すと「黄金週間」ですが、その由来は、映画興行のキャッチフレーズだと言われています。映画は家でも楽しめますが、迫力のあるスクリーンと音響を体感できる映画館は格別です。そろそろ私の映画館通いを、ゴールデンウィークを機に復活させてもいいかなと思っていましたが、ゴールデンウィークの人込みの中に出かけていくのは躊躇しました。もうしばらくは我慢します。

というわけで、これまで録画してきたブルーレイを自宅でゆっくりと観ることにしました。「何を観ようかなあ」とタイトルを見るだけでもウキウキしてきました。候補に挙げたのは、「孤高のメス」「イエスタデイ」「オズランド」「シャレード」「オールウェイズ」「アキラとあきら」「フィールズオブドリーム」「北北西に進路をとれ」「繕い裁つ人」の9本。「9本も！」と思われるかもしれませんが、厳選しての9本です。私が学生の時は、「3本立て映画」を安く見ることができる映画館が複数あり、1週間に10本近くみることもありました。

9本のうち今回のゴールデンウィークで初めて見る映画もあれば2回目のももありましたが、どの映画も休みのひと時(6日間)を楽しませてくれる名作ぞろいでした。2回目の映画は、「オールウェイズ」「フィールズオブドリーム」「北北西に進路をとれ」「繕い裁つ人」。

一番新しい映画が「アキラとあきら」です。原作は池井戸潤。「半沢直樹」で注目された作家で、すでに数作が映画化されています。原作と映画、どちらが先がいいのかは、人によって異なるでしょうが、私は昔は原作を優先していました。しかし、最近は活字を追うのがしんどくなり、映像を先にすることが多くなりました。「アキラとあきら」の原作は2006年から2009年まで雑誌に連載されたものですが、2017年に文庫化されました。700ページ近くありますが、一気に読めます。映画もドラマ「半沢直樹」に劣らぬ作品でした。

